く、皆一同に御尤千萬と申上る、其中に高井伊織壹人肯ぬ顏にて、頭を上て罷在候を御覽とがめする〳〵と御立寄被遊、己が顏は我を尤と思はぬ顏付なり、我無理か非道か申上候へと御問詰被成候得ば、伊織承り、久彌罪科勿論に御座候へば、御成敗之段御尤至極奉存候、然ば誰に成共被仰付、御成敗可被成御事に候、尤武將之御身にて被成御座候へば、戰場にて御自身御手を御下し被遊候段勿論にて候、平生の御時に、御官位は中納言從三位に至り給ふ御身にて、御手打遊され候事、禁裏へ奉對御無禮御無義不過之候、只御武運之末と奉存候と、申もあらず涙をはら〳〵と流し、無勿體御事と申上る、賴宣君も道理に御詰り、奥へ被爲入候て後、伊織を御召、汝が先刻諫申候處、道理至極也、自今手打は堅く被遊間敷と、御誓言ありて、夫より御一代に御手打は無之候、

〔愈の須佐美追加下〕紀伊の先公（○德川賴宣）は、智勇拔群なりしうへ、諫を納事江海の如なりしとぞ、年盛におはせし時にや、刀をためしみむとて、刑戮の有し時出給て、手自坐袈裟を試給ふに、いとも快く切しかば、喜悅まし〳〵、那波道圓御側に在しに、何といさぎよからずや、かゝる劍も切る人も漢土に有べしやと有し時、道圓劍は干將莫邪など如此なるべし、人は桀紂卽其人也と申しかば、御氣色あしく、其儘歸入給しが、其夕使を給りて、今日の事誤なるよしを思ひ知りたりと有て、其後は事無りけり、君臣皆誠に忠信なりしとぞ覺る、道圓子に對して常に、誠しは、亂世には臣は君の爲に死する事有、太平の世に在ては、改めて死する事を忘べからずと有しとぞ、

〔吉備烈公遺事〕一公（○池田光政）孝經を講せさせられし時、爭臣の章に及で、大臣池田出羽、池田伊賀に尤心を爲に用らるべし、予によからぬ事あらば必諫らるべし、又各にも人の諫ん事能請容られよと仰ありしかば、一座皆感じ奉りし時に、中川謙叔（權左衞門）進出て、只今の一言、國家永久を保せ給ふべき兆なり、然共公は嚴威ありて殊に聰明におわします、亦痘疱のあと容貌甚見ぐるしく、眸子かゞやきて見むきがたし、たま〳〵怒り發させ給ふ時は、一目とも見られずと人々申候、か、